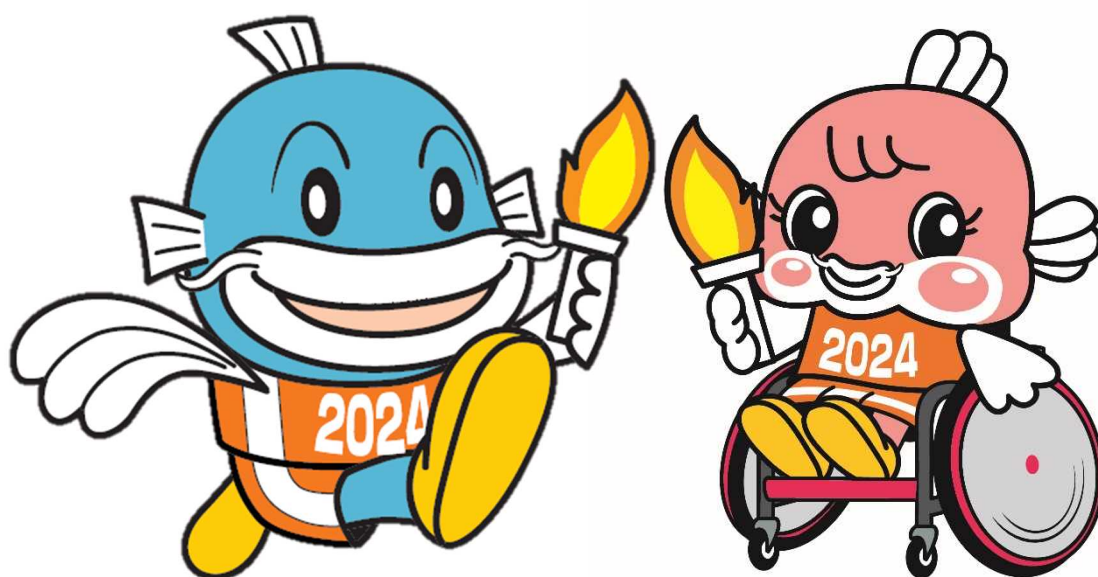


第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会
子ども・若者参画特別委員会

子ども・若者参画特別委員会

(ジュニア・ユースチーム第6期生)

『提言書』



湖国の感動 未来へつなぐ



わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

2024



令和2年(2020)年3月

目次

第1	はじめに	・・・1
第2	提言	
	提言1 体験会運営について	・・・2
	提言2 マイスポーツを見つける方法について	・・・4
第3	振り返り	
	委員の振り返り	・・・9



第1 はじめに

◆子ども・若者参画特別委員会(通称：ジュニア・ユースチーム)

令和6年(2024年)に第79回国民スポーツ大会(国スポ)および第24回全国障害者スポーツ大会(障スポ)を本県で開催するにあたり、子どもや若者の視点や発想を両大会の開催準備や県のスポーツ推進に反映させることを目的に、開催準備委員会のもとに「子ども・若者参画特別委員会(通称：ジュニア・ユースチーム)」が設置されました。

この活動は国スポ・障スポを準備する他県にはない滋賀オリジナルの取組です。

県内に居住、通学・通勤する小学5年生から大学生世代の子ども・若者を対象に募集があり、今年度(第6期生)は小学5年生から大学3年生までの36名が活動しました。

◆提言書ができるまで

『マイスポーツを探せ!!』をテーマに、令和6年(2024年)に国スポ・障スポの開催を控える中、年齢、性別、障害の有無に関係なく、誰もが気軽に楽しめるスポーツを体験し、県民がスポーツに関わるきっかけや生涯にわたりスポーツに関わることができる方法について考えました。令和元年8月の結団式から、7回の活動を行いました。活動前期は、仲間づくり活動やeスポーツ、スポーツウエルネス吹矢、ボッチャ、フライングディスクの競技体験および取材活動を行いました。なお、10月12日に予定していたレクリエーションスポーツの競技体験については、台風19号の接近により中止となりました。中期は、国スポ・障スポ内定記念イベントでスポーツ体験会の運営を行いました。後期は、これまでのまとめや「体験会運営の心得」、「マイスポーツを見つける6カ条」について意見を出し合い検討しました。本提言書は3月22日に行われる活動報告会で発表する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により中止になったため、発表の内容を提言書として取りまとめたものです。

これは、子ども・若者参画特別委員会(ジュニア・ユースチーム6期生)からの提言によって、将来、両大会に関わり、参加する子ども・若者の視点や考えを両大会の開催準備や県のスポーツ推進等に反映させることを目的としています。

滋賀県開催準備委員会におかれては、以上の趣旨を踏まえ、これらの意見を反映させていただくことを切に期待するものです。

令和2年3月22日

子ども・若者参画特別委員会
(ジュニア・ユースチーム) 第6期生一同

第2 提言

提言1 体験会運営について

体験会運営の心得

これから体験会をする市町や競技団体のみなさまへ

①説明

本物の用具、写真を使うなど、視覚的にわかりやすい説明がよい。

②宣伝

SNSやチラシなどで、事前に告知しておく。



③体験会の場所

年齢により集まるところが違う。
多くの場所で、体験会を複数回行うとよい。



④ルール

年齢等に合わせて体験用のルールがあるとよい。

最初に、スポーツ体験会運営の経験をもとに、メンバーで体験会の心得としてまとめましたので、紹介します。

「体験会をするときの心得」、一つ目は、わかりやすい説明です。本物の競技用具を使用したり、絵や写真で視覚的にわかりやすくするとルールなどを覚えてもらいやすいと考えます。また、小さな子どもや年配の方にもわかる簡単な説明ができると良いと思います。二つ目は、宣伝です。SNSやチラシ、広報誌などを使い、体験会までに多くの方に知ってもらうことができれば、参加していただく方が増えると考えます。三つ目は、体験会を開催する場所です。年齢によって集まる場所が変わります。例えば、年配の方は各地域の商店街、家族連れは公園やショッピングモール等に多く集まっていると思われるので、そのような場所で年代に合わせた体験会が行いやすいと考えます。四つ目は、ルールの工夫です。年齢によってできないこともあり、どんな人にも体験してもらえるルールの工夫が大切だと考えます。以上が体験会運営の心得になります。

体験会の良いところ

- ①新しいスポーツを知ってもらったり、興味を持ってもらえる。
- ②スポーツをやってみようと思ってもらえる。
- ③幅広い年代の方に体験してもらえる。
- ④運営する側は、多くの人と関わり、直接魅力を伝えることができる。

体験会をするときに注意すること

- ①安全面、衛生面での対策
- ②役割分担
- ③わかりやすい説明
- ④たくさんお客さんが来た時の対応



次に、スポーツ体験会の運営をとおして、私たちが学んだことを報告します。

「体験会で工夫できたことやうまくいったこと」については、誰にでもわかる言葉で説明できたこと、デモンストレーションを行い、気軽に参加しやすい雰囲気をつくれたこと、さらに、担当以外の忙しい仕事を手伝うといった臨機応変な対応ができたことが良かったと思います。

「難しかったこと、困ったこと」については、年配の方に声をかける、チラシを渡す、小さい子どもにわかる言葉を選ぶといったことなどで、特に、お客さんが体験で失敗したときの対応や、お客さんのいない時間帯の対応については、メンバーも苦戦していました。

「お客さんの反応や様子」については、家族全員で体験をされた方、どうしたらうまくいくのかと質問してくださる方、何回も挑戦される方、体験会の種目を始めたいと考えていらっしゃる方など、多くの方に

楽しく体験いただいていると感じました。反対に、用具の使い方や体験用ルールが難しい競技もあったように感じました。

「体験会の良いところ」は、新しいスポーツを知ってもらったり、興味を持ってもらえること、スポーツをやってみようと思ってもらえること、幅広い年代の方に体験してもらえることがあります。さらに多くの人と関わることで、競技の魅力について直接伝えることができ、普及にもつながっていくものだと考えます。

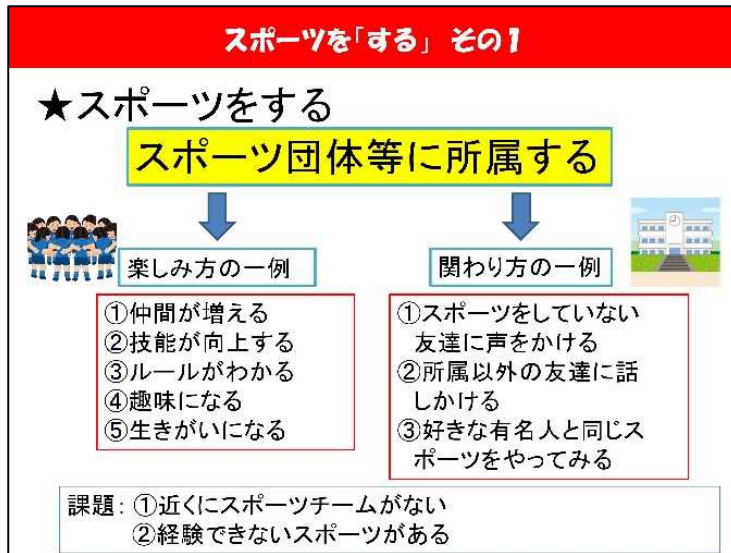
「体験会をするときに注意すること」は、参加者や周囲の安全面の確保や競技用具などの衛生面の対策、スムーズに運営できる役割分担をしておくこと、わかりやすい説明をすること、待ち時間をつくらないことに気をつけたら良いと考えます。

ここまでの、私たちが体験会を通して学んだこととなります。



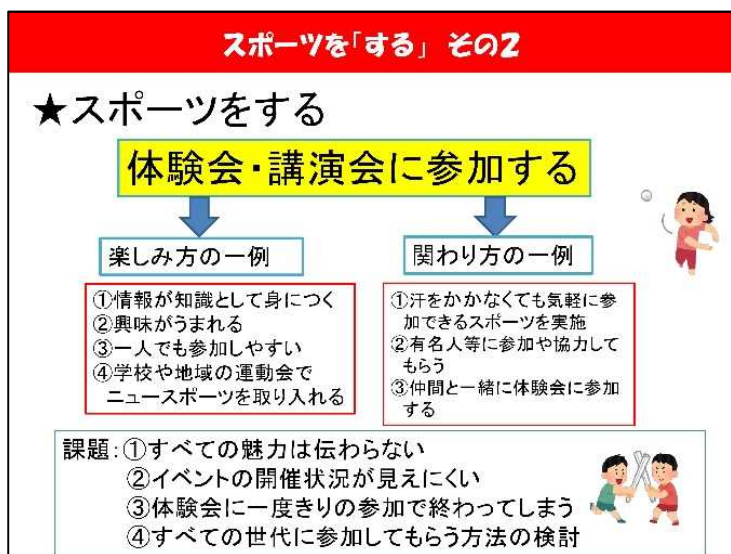
提言2 マイスポーツを見つける方法について

4つの競技と体験会を経験してきた私達ですが、どの競技も楽しく、もっともっとみなさんにスポーツに関わってほしい、生涯にわたってスポーツにふれてほしいと考えました。そこで、スポーツを「する」「見る」「支える」という視点から、それぞれ、どの様なアプローチの仕方があるのかについて、私たちなりに具体的に検討しましたので報告します。



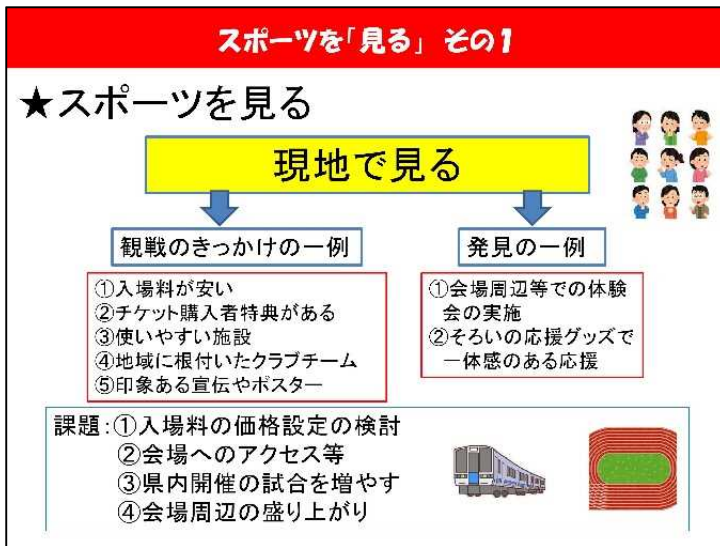
はじめに、スポーツを「する」についてです。アプローチの仕方の一つ目は、スポーツ団体等に所属することです。スポーツ団体等に所属することで同じスポーツをする仲間が増える、体力や技能が向上する、競技の特性やルールを深く知ることができるといった楽しみ方があると考えます。また、スポーツが趣味になることで、生きがいや健康づくりにつながると考えます。さらに、スポーツをしていない友達に声をかける、所属以外の友達に話しかける、好きな有名人と同じスポーツをやってみる

外からの友達に話しかける、好きな有名人と同じスポーツをやってみるから始めることができると考えます。課題は、住んでいる地域にスポーツチームがなければ参加できないこと、地域や学校では経験できないスポーツも多くあることだと考えました。



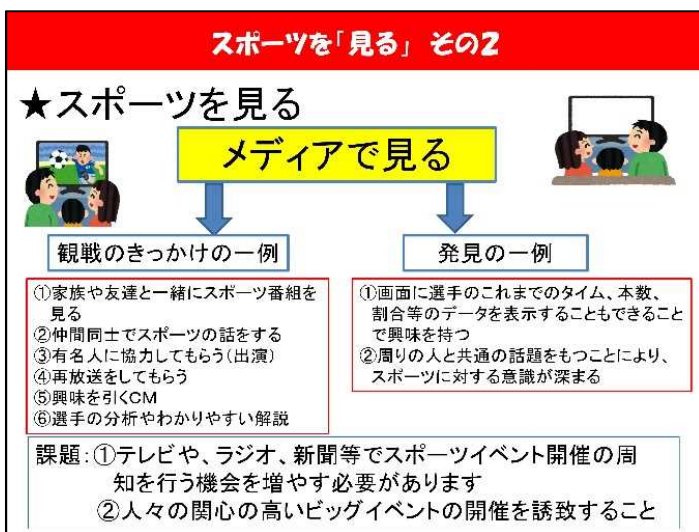
二つ目は、体験会や講演会に参加することです。参加すると情報や知識を得て、興味関心がうまれる、また一人でも参加できる、地域や学校でニュースポーツができるといった楽しみ方があると考えます。さらに、有名人が体験会や講演会に協力する、仲間と一緒に体験会に参加する、気軽にできるスポーツの体験会が実施されると、スポーツに関わりやすくなると考えます。課題は、体験会だけではスポーツの魅力が十分に伝えられないこと

と、体験会の開催状況がわからないこと、一度きりの参加で終わってしまうことが予想されます。さらに、全ての世代の方々に体験会に参加してもらえる手段の検討が必要になります。



次に、スポーツを「見る」についてです。アプローチの仕方の一つ目として現地で見ることです。入場料金やチケットを安くする、チケット購入者に特典がある、誰もが使いやすい施設やバリアフリーが整っている施設がある、地域に根付いたクラブチームがある、インパクトがある宣伝やポスターを見ることで、現地でスポーツを見たいと思う人が増えると考えます。また、会場周辺で体験会があるとスポーツにふれるきっかけになること、

そろいのグッズで一体感のある応援をすることで面白さを見つけることができると考えます。課題は、入場料金や観戦料金の価格設定の検討、会場駐車場の広さやアクセスの整備、県内開催の試合を増やすこと、会場周辺を屋台やイベントなどで盛り上げることが必要だと考えます。



二つ目は、メディアで見ることです。家族や友達と一緒にテレビでスポーツ番組を見ること、仲間同士でスポーツの話をすること、有名人にスポーツ番組に出演してもらうこと、白熱した試合や注目する試合の再放送があること、興味を引くCMがあること、選手やチームの動きを分析したわかりやすい解説があると、観戦する人が増えると考えます。またテレビでは、画面に選手の成績等、様々なデータを表示すること

ができるため、周りの人と共通の話題をもちやすくなりスポーツへの興味がわいたり、面白さを発見しやすくなると考えます。課題は、テレビやラジオ、新聞等でスポーツイベント開催の周知を行う必要があります。また、人々の関心の高いビッグイベントの開催を誘致することが必要だと考えます。



スポーツを「支える」 その1

★スポーツを支える

ボランティア・運営・裏方



- ①ボランティアに参加したら、観戦チケットをプレゼントなどの特典を付ける
- ②選手を間近で見られるチャンスがある等広報する。
- ③学校や会社、地域でボランティアの日を設ける
- ④チラシやSNS、HP等の広報媒体にボランティアの活動内容の詳細を明記する

- 課題: ①親子で参加できる等、ボランティアの内容の検討
②ボランティアの募集方法で楽しみ方や参加特典をつけて、PRできる方法の検討
③様々な広報媒体を使用し、ボランティア募集の情報を適宜発信

HPなどにボランティアの活動内容の詳細を明記することで、興味を示す人が増えるのではないかと考えます。課題は、ボランティアの内容の検討が必要だと考えます。また、募集方法の中に楽しみ方を紹介したり、参加特典をつけるなどPRする方法を検討することが必要となります。さらに、SNSやチラシなどを活用しながら、ボランティア募集の情報を常に発信することが大切だと考えます。

スポーツを「支える」 その2

★スポーツを支える

伝える(知名度を上げる)



- ①スポーツの裏方の仕事をされている方、ボランティア経験者にインタビューをテレビで放送する
- ②大会前にSNS広告、新聞などで見どころ放送する
- ③YouTube、TV、イベントなどで、選手が直接競技の魅力を伝える
- ④面白くわかりやすい実況等により、伝わる工夫

- 課題: ①CM、メディアの使用料金等の費用面での検討
②全ての人に情報が伝わる手段の検討



次に、スポーツを「支える」についてです。アプローチの仕方の一つ目としては、ボランティア、運営、裏方の立場としてスポーツに関わることです。ボランティアに参加したら、観戦チケットをプレゼントするなどの特典を付ける、一流選手を間近で見られるチャンスがあることなどを広報する、学校や会社、地域でボランティアの日を設けるなどして、普段から奉仕の意識を高める、チラシやSNS、HPなどにボランティアの活動内容の詳細を明記することで、興味を示す人が増えるのではないかと考えます。課題は、ボランティアの内容の検討が必要だと考えます。また、募集方法の中に楽しみ方を紹介したり、参加特典をつけるなどPRする方法を検討することが必要となります。さらに、SNSやチラシなどを活用しながら、ボランティア募集の情報を常に発信することが大切だと考えます。

二つ目は、伝える(知名度を上げる)ことです。スポーツの裏方の仕事や、実際にボランティアに参加された方のインタビューをメディアで放送するなどすれば、活動の面白さが発信できると考えます。また、大会前にSNS、広告、新聞などで、スポーツの見どころを発信したり、スポーツ選手がYouTube、TV、イベントなどで直接競技の魅力を伝えるとさらにスポーツが面白く伝わると考えます。課題は、CM、メディアの使用料金等が高額になるため費用面での検討が必要だと考えます。また、全ての人にスポーツの情報が伝わる手段を検討しなければならないと考えます。

費用面での検討が必要だと考えます。また、全ての人にスポーツの情報が伝わる手段を検討しなければならないと考えます。



最後に、これまでの検討結果のまとめとして、「マイスポーツを見つける6カ条」と題し、整理しました。

マイスポーツを見つける6カ条！

する

1. 部活動・クラブチームに入りスポーツをしよう！



見る

2. とりあえず、一回やってみよう！
～体験会・スポーツイベント～



3. レッツゴー 試合会場！
～現地で熱を感じよう～



OCEAN SHIGA BLACKS

4. テレビでスポーツを見よう！



支える

5. 『ONE TEAM！』
～スポーツをみんなで支えよう～



6. あなたの言葉で伝えてみよう！
～#スポーツ～



- 一つめは、「部活動・クラブチームに入りスポーツをしよう！」
- 二つめは、「とりあえず、一回やってみよう！～体験会・スポーツイベント～」
- 三つめは、「レッツゴー 試合会場！～現地で熱を感じよう～」
- 四つ目は、「テレビでスポーツを見てみよう！」
- 五つ目は、『ONE TEAM!』～スポーツをみんなで支えよう～」
- 六つ目は、「あなたの言葉で伝えてみよう！～#スポーツ～」です。

是非参考にさせていただければと思います。

今回のテーマは、「マイスポーツを探せ!!」ということで、そのための「きっかけ」を提案しましたが、内容にもあります様に、それぞれに課題があります。課題克服のためには、行政だけでなく企業や競技団体などたくさんの皆さんの力が必要です。スポーツを通じて、滋賀県がもっと元気で健康になるよう、よろしくをお願いします。



3 振り返り

僕は草津イオンモールで担当していたのは吹き矢です。吹き矢はとてもむずかしいイメージですが、思ったより真、直ぐ飛びます。でも最初は真、直ぐ飛ぶの？と僕も最初そう思いましたが、とても簡単に矢が飛ぶのでとてもたのしかったです。

この活動に参加してよかったことは、第6回の活動で、運営体験会をわったことです。なぜかというと、私は初めて会った人としゃべったりするのが苦手でした。けれど、運営体験会を通して、参加していただく方にルール説明をしたり質問されたことに答えたりできたので、これから初めて会った人とたくさんしゃべれるような自信ができました。また、1番楽しかったスポーツはボッチャなので、またたくさんやりたいです。皆さん、半年間ありがとうございました。

ぼくは、草津のイオンモールで体験会をしてもらって、いろいろなスポーツがあるんだなと思ってもらえて良かったと思いました。

そして、今後は体験してもらったスポーツを広げるには自分がPRしていきたいです。

ジュニアユースチームの活動に参加して、初めは、自信がなく、不安でした。けれど野性の森のアスレチックで仲間と協力してクリアしたので、自信が出て楽しめるようになりました。わたしがこのジュニアユースチームの活動をして、一番心に残ったことは、体験会に来てもらって、楽しい。と笑顔になってもらったことです。喜ばれているかと心配していたときに言ってもらったので、とてもうれしくなりました。これからも、いろいろなスポーツを言聞べたり、実際見に行ったりして、スポーツと関わって行きたいです。

わたしはこの活動をして、苦手だったスポーツに
対して、前向きな気持ちを持つことが出来る
ようになった。大学生の人たちのまとめ方
はとても勉強になり、なにより新しいスポーツ
や、知らなかったスポーツをたくさん知ることが
できた。なのでこれから（は）周りの人たちにも、
たくさんのスポーツを知ってもらえるようにしたい。

私が ジュニアユースチームの活動をとおりて学んだこ
とは、いろいろな所で、たくさんの方がスポーツをするこ
とができること、障害のある人でも、お年よりから、
小さい子どもまで、色々な人がすることができること。
が学べたと思ってる。私は友達や知り合いなどに、
色々な人にスポーツの良さを広めて、たくさんの人に

興味をもってもらえたら
いいなと思ってる。

ジュニア・ユースチームの活動に参加して、初めは、自信がなく、不安でした。けれど、野性の森のアスレチックで仲間と協力してクリアしたので、自信が出て楽しめるようになりました。わたしがこのジュニア・ユースチームの活動をして、一番心に残ったことは、体験会に来てもらって、「楽しい」と笑顔になってもらったことです。喜ばれているかと心配していたときに言ってもらったので、とてもうれしくなりました。これからは、いろいろなスポーツを調べたり、実際に見に行ったりして、スポーツに関わって行きたいです。

わたしが印象に残ったことは、体験会です。体験会で特に学んだこと、感じたことは、楽しさやルールを分かってもらい、笑顔になってもらうことが大事だと思いました。これからは、まだまだたくさんあるスポーツをたくさんしていき、スポーツの楽しさを色々な人に伝えたいです。

ほくかジュニアユースチームの活動を
とおして心に残っていることは
体験会です。あまり人はこな
かたけどお客さんはとても喜
んでくれたのでよかったです。

一番最後にはお礼の言葉を活動に
して行く中で、他のメンバーと仲よくな
れたりと、楽しかったです。コロナウイルスの
えいさつで、報告会、解団式ができ
ないのは悲しいけれど、国スポしょうスポに
向けて、他にももりあけるよう
なことをしたいです。

私は、スポーツウエルネス吹矢がみりよく的
だと思いました。スポーツウエルネス吹矢は、ストレス
解消もでき、女性にもうれしい、美肌・ダイエット
効果もあり、だれでもできるスポーツなので、とても
みりよく的です。他にも、たくさんみりよく的な
スポーツがあるので、国スポ・障スポに興味を
持ってもらえるように、伝えていきたいです。

私が今年の活動を通して、
どうしたら打んなにスポーツを知
、こもやえるか考え、なりました。
また、スポーツを体験して楽しか
、たのしみと体験の場を増やす
と競技人口が増える事につなげたい
と思います。

ジュニアユースチームの活動をおして学んだ事は、スポーツは工夫をすれば、皆が楽しくスポーツを出来るということです。咲き矢では難しい動作を省く事で子供達が楽しめる事が分かりました。工夫をする事で皆がスポーツに親しむ事が出来ると思います。

ジュニアユースチームの活動をおして、仲間と協力、助け合うことの大切さを学びました。普段は体験できないようなスポーツを体験させていただき、「スポーツは、人を笑顔にしてくれるもの」ということを知りました。特に体験会をしたときは、より多くの人に、スポーツの楽しさを知ってもらい、興味をもってもらうと思いつながら活動していました。そんな活動をおしてスポーツの良さを知った私は、学んだことをまずは身近な人がどうとん広めたい。

ジュニア・ユースチームに入っていろいろな
スポーツも体験したおかげで知らなかった
スポーツにふれることができました。

ほかにもスポーツを通して仲良くなれ
ることもわかりました。

これからもスポーツについてすこしずつ知って、
周りの人にもこの楽しさを伝えていきたいです。

活動を通して、ほくは、スポーツをみんなですればより楽しくなるというすば
らしいことを学びました。仲間たちといろいろなスポーツをすることで仲も深ま
り、一人でスポーツに取り組むよりも、いろいろな人達とスポーツをすることで、
より楽しくなると感じました。

ほくは、今年から中学生です。中学生になれば部活などでいろいろな
スポーツと関わる機会が増えると思うので、仲間達とスポーツに取り組
めたらいいなと思います。

私がジュニア・ユースチームを通して学んだことは、
スポーツを楽しむために、そのスポーツの楽しさや
魅力、難しい所を知ったり、いろいろなスポーツを
体験してみることです。私は今、空手と水泳を
しています。他にもいろいろなスポーツを
体験して、「マイスポーツ」を見つけることが
できればいいなと思います。

今回の活動を通して、さまざまなスポーツを知り、スポーツに対
しての視野が広くなりました。スポーツに関わる人への理解が
深まり、一つ一つのスポーツの奥深さに興味を持ちまし
た。みなさんと活動できる機会を与えてもらい、とても
光栄です。また、このような機会をもらえるのなら、
参加したいです。此の度はありがとうございました。

活動をとおして私は、たくさんの人達とスポーツをする
楽しみを知ることができました。自分が思っていたよりもスポーツ
をとおして仲良くなれた人が多くて、スポーツが「良いな」と思うことが
できました。他にも、選手の方からスポーツについてお話しを
聞いたのでとても良い体験だったなと思います。イベントの運営
は困ったこともあったけれども、協力してなしとげることができ
てとてもうれしかったです。これからもいろいろなスポーツを体験してみたいです。

私は活動を振り返って、良かったと思った事がありました。
1つは、人間関係が広がり、とても楽しく過ごせたと思
います。2つは、障害を持った方と一緒にスポーツができた
新しいスポーツに出会えたという事です。私達が知っているスポ
ーツは、ほとんど、体全体を使う物ですがここで知ったのは体の一部だけ
しか使われない。特別なスポーツばかりです。私は、
ここで、学んだ事を次に活かしたいです。

ジュニア・ユースチームの活動をとおして、学んだことは、
スポーツは誰でも楽しめるということでした。

自分自身あまりスポーツが好きではなかったため、

この活動をとおしてスポーツが楽しいということを感じ

ました。自分のこれからのスポーツの関わり

方は、体育の時間なども自分から積極的に

行動をしていきたいです。一つはスポーツにも関わっていきたく
たい

今回の活動のテーマは、「マイスポーツを見つけて楽しむ」だった。今回、い

ろんな活動があった。その中で私が一番大変だったと感じたのは、イオンでの

体験会の運営だ。なぜかという、体験に来るお客さんに口をゆず

ぐ説明をするか、思ってたよりも難しかったから。でも、いっしょにいた

仲間が助けってくれてとても嬉しかった。こんな体験ができて良かった。

最終回の発表が無くなったことは、ごめんだった。でも、この1年間で、

たくさん学べて良かった。1年間ありがとうございました。

ジュニア・ユースチームの活動で僕はスポーツを通して「仲間」ができることを改めて学びました。仲間はその中でも、相手、味方、指導者さんなど、いろんな立場の人と楽しめるのがスポーツなんだなと思いました。

これからは、ジュニア・ユースチームの活動の経馬灸を活かし、スポーツには、国スポ・少スポの楽しさ、すそを伝えていこうと思います。

私は活動を通して、チームスポーツの楽しさを感じました。

個人で戦うのはもちろん楽しいです。しかし、

チームで戦うと、協力したり、一緒に喜べたりする

ことができ、より楽しく活動できた気がしました。

これから、部活や地域、学校などで、体を動かして

たり、スポーツをする機会があれば、今までより活動で

学んだ「チーム」でやる楽しさをも、感じたいなと思っています。

僕はこのジュニア・ユースチームの活動を通して、国スポ・障スポの開催に多くの人に関わっていることを学びました。またスポーツをする・見る・支える人が2024年に向けて滋賀県ではもっと増えるのではないかと思いました。僕はこれから積極的にスポーツイベントに参加したり、現地で観戦しようと改めて思いました。

今年ジュニアユースチーム 第6期生として活動に参加していったとき、滋賀県内のメンバーと楽しく様々な経馬会をしました。

仲間作り活動やeスポーツのプロプレイヤーの方への取材活動、国スポ・障スポ内定記念イベントとしてのスポーツ体験会の運営など、普段ではなかなかできない貴重な時間となりました。最初は、なかなか自分の意見を言うことができなかったけれど、活動を重ねるにつれ言えるようになりました。またこれからはスポーツと一緒に自分自身も成長していきたいです。

私は、昨年に引き続き今年も参加しました。2年間の活動の中で1番印象に残っているのは「出会い」です。初めて知るスポーツ、新しい人との出会い。たくさんのお会いの中で成長することができました。また、全力で挑戦する力を養うこともできました。何より、どんな時も頼りになる方に出会えたことが1番の宝物です。仲良くしてくれたみんな、本当にありがとうございました。

今回の活動では、競技者の方にお話をきくことで、ふわとした印象だけではなく、競技の深い部分まで知ることができたと思います。また、ボッチャのチームが滋賀県内にあることなどをきいて、パラスポーツが思ったより身近であることを感じました。

報告会ができないのは残念ですが、これからも様々なスポーツを体験していきたいです。

私は今回このジュニア・ユースチームの活動に参加し、たくさんの方のことを学ぶことができました。特に体験会で年齢差の広い私達が協力してたくさんの方を笑顔にすることができたことから、スポーツを楽しむときに、年齢や性別は関係ないと強く感じました。これからもっと多くの方に国スポ・障スポの魅力を伝えていきたいと思っています。

ジュニア・ユースチームの活動を通してスポーツを楽しむ、自ら学びあうこと、もっとより良い時間になることを学びました。これから、「あそび。見る。支える」を大テーマにして、スポーツと関わり、いきなさいです。約1年向本当にありたいという気持ちになりました。

私はジュニア・ユースチームの活動をして、意見を言い大切だと、楽しく過ごした時間を得ました。私は元は大人数の前で自分の意見を主張するのがとても苦手でしたが、みんながいろんな意見をかまわず言っていたので、自分の思っていることをとりあえずは口に出してみるという行動力を得ることができました。最初の頃は、このメンバーと仲良くできるか不安だったのですが、毎回毎回、ジュニア・ユースチームの活動がとても楽しみなぐらい、たくさんの方としゃべってよかったです。さまざまなスポーツがまだまだあると思います。新しいスポーツと除々にかかかっていけたらいいと思います。

私は興味本位で応募したところ、3ヶ月と長い期間のことだったので、スポーツに出会いました。1ヶ月の活動には個性があり、見つけていると私に簡単に出来る人ではないかと思っていました。でも、実際にやるとはなかなか難しく、1ヶ月がわくわくして苦痛でした。でも、1ヶ月がわくわくして、上手になると、4ヶ月で2ヶ月の倍の楽しさを感じていました。また、一緒に活動していたユースチームの活動日数が増えることで、仲良くなって良かったです。

自分の予定が日程と合わず、後半の振り返りの活動にしか参加できませんでした。良い経験になったと思っています。意見交流の時、様々な視点の意見を聞くことができ、良い反省会にすることができたと同時に、自分自身の学びを深める事ができました。少しでも多くの人に「マイスポーツ」をみつけて欲しいと思います。

年齢も違うメンバーの皆様と関わり、知らない情報を得て学んだことは私の価値感を豊かにしてくれました。メンバーの皆様、全員と顔合わせらなれたのはとても残念でしたが、これから様々なスポーツの場面でまた会えたらいいなと思っています。楽しい時間をありがとうございました。

この活動を通して初めて体験した競技が多くあ
た。実際にやると楽しいものが多い、しかしあまり知る機会
がなかったのだらうかと疑問に思った。体験会を実施
すれば知ってもらえるのではと考えたが、まず体験会に来
てもらうための工夫が必要であることに気付いた。あたしま
えのことだが、やってみたらこそ、競技を知ってもらうことは
難しく、様々な角度から見ると、考えることが大事だとわかった。